

SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

ビッグベリードシーホース

【英名】big bellied seahorse

【学名】*Hippocampus abdominalis*

オーストラリア南部からニュージーランドの海に生息する大型のタツノオトシゴのなかまで、水族園では「オーストラリア西部」水槽で展示しています。このなかまは、一風変わった繁殖を行います。オスのお腹には育児のうという子育てをするための袋があり、メスがこの袋の中に産卵した後、オスが精子を放出し受精します。ふ化した子はしばらくこの袋の中で成長し、成魚と同じ姿で袋から出てきます。ビッグベリードシーホースのメスのからだは全身硬い骨板で覆われていますが、オスはお腹がつるつるとした見た目をしていて柔らかく、子がいる間は育児のうが大きく膨らみます。名前の「ビッグベリ」は、「大きいお腹」という意味。子をまもるオスは、その名にふさわしい姿になります。（飼育展示係 松村 哲）

CONTENTS

SEA LIFE TOPICS

- 水族園生まれのカチューディートたち
- 貝殻をもつタコ！ タコブネの展示

なぎさNEWS

- 暑い夏の影響？
- なぎさで探そう！ こんな生き物 「ヤマトシジミ」

水族園のもう一つの顔

- ビッグベリードシーホースがぬいぐるみに！

TSLP LATEST



Vol.21 No.6 2023

DECEMBER

通巻

113

SEA LIFE TOPICS

大きさ8.7mm
ふ化後33日のカチュディート



水族園生まれのカチュディートたち

「世界の海」エリア「チリ沿岸」水槽では、水族園生まれのカチュディートを展示しています。親のカチュディートたちは2019年に水族園職員が実際にチリ共和国の海に潜って採集してきたものです。水族園では世界各地の海の生き物たちを展示しており、水族園職員が実際に現地に行って採集してきます。しかし、このように遠い場所から連れてきた生き物たちは、すぐにまた入手できる生き物ばかりではありません。それぞれにテーマのある展示水槽を維持・継続していくために、連れてきた生き物を繁殖させることはとても重要なことです。カチュディートはチリ沿岸にすむ、イソギンポ科のなかまです。同じ場所に生息している世界最大のフジツボのなかま「ピコロコ」の殻を巣穴とするため、ピコロコブレニー（ブレニーはギンポ類の英名）とよばれることもあります。ピコロコの殻から少しだけ顔をのぞかせているとき、頭にある皮弁とよばれる突起がまるでピコロコの爪状突起のように見え、堅い殻で身を守るピコロコに擬態しているかのようです。

イソギンポ科魚類の多くは、オスの巣穴に複数のメスが訪れ産卵をする「縄張り訪問型複婚」という配偶システムであることが知られています。このカチュディートもバックヤードの水槽内

で、オスの巣穴にメスが産卵しに来る様子が観察されました。巣穴の壁に産みつけられた球形の卵は卵径約0.8mmで、産卵からおおよそ3週間後にふ化がはじまりました。ふ化した仔魚は全長約4.0mmと小さく、その小さな口に入る大きさのエサを用意するのが大変でした。最初はシオミズツボワムシという小さな生きたプランクトンをあたえ、少し大きくなると、ふ化したばかりのブラインシュリンプのノープリウス幼生をあたえました。体が大きくなるにつれてエサばかりでなく、育てている水槽も体のサイズに合わせたものに大きくしていき、隠れ家なども用意しました。そして、ふ化後185日目には全長約50mmにまで成長し、親とほぼ同じ大きさにまで育ちました。展示水槽にデビューしたカチュディートたちにもオスとメスがいたので、水槽内でもオスの巣穴を訪問するメスが観察できるかもしれません。ぜひ、ピコロコの殻からかわいい顔をのぞかせているカチュディートを見に来てください。

多種多様な生き物たちの展示を継続していくためにも、生物の繁殖・育成にこれからも取り組んでいきます。

(飼育展示係 小味 亮介)



カチュディートを育成した水槽



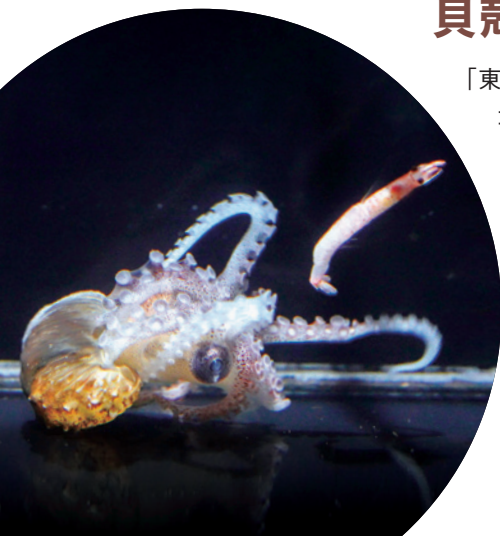
巣穴からこちらを警戒するカチュディート

貝殻をもつタコ！ タコブネの展示

「東京の海」エリア「浮遊生物」コーナーで展示しているタコブネの飼育期間が3か月をこえました。タコブネはタコのなかまでは珍しく体を覆う殻をもっていますが、この殻をもつのはメスだけでオスはもっと小さい体をしているようです。広く世界の温かい海に分布していて、水面近くで浮遊生活をしています。生態についてくわしくはわかっておらず、各地の水族館で飼育されても、多くは短期間の展示になってしまいます。今回のタコブネは高知県で採集されて8月22日に水族園にやってきました。エサのサクラエビやシラスなどを食べて、来た時よりもだいぶ大きくなりました。成長に合わせて殻も自分で大きくしていくのですが、体の成長に殻の大きさが間に合っていないようで少し心配です。また、海の中では海面近くに浮いて生活しているはずですが、水槽の中では底面に沈んで過ごしていることがほとんどです。

(飼育展示係 三森 亮介)

エサのサクラエビを捕らえようとするタコブネ



なぎさ NEWS



暑い夏の影響？

10月13日午前「西なぎさ」で地曳網調査を実施しました。水温は前回(8月1日)の32℃から10℃も低下した22.5℃で秋らしくなりましたが、雨が少ないせいか塩分が29ppt(約3%)と「西なぎさ」としてはかなり高めでした。

さて、入網生物はイサザアミが大半を占めていましたが、魚類もマハゼ、アシシロハゼ、マゴチ、シロギス、イシカワシラウオなど複数種が採集されました。その中で特筆すべきは、マゴチの入網数が多かったことです。マゴチは初夏～夏に産卵し、「西なぎさ」では、例年8月に当歳魚が出現していました。今回10月の調査で採集された14尾のマゴチのうち最小の個体は全長37mmと小さく、生まれてそれほど時間が経っていないものと思われます。また、シロギスもかつては8月に多くみられる傾向がありましたが、近年は10月に出現しています。今年は7尾採集されて、最小個体は全長27mmでした。

これらの現象が夏の暑さによる高水温の影響と一概には断定できませんが、当園の他の調査でも東京湾口付近では、亜熱帯系の魚類が採集されるなど、東京湾の魚類相が以前とは変わってきていることは事実のようです。(調査係 池田 正人)



採集されたマゴチの標本

なぎさで探そう！ こんな生き物

見つけやすさ ★★★☆☆

サイズ 殻長 2-3cm

見つけるコツ

潮が引いて泥地や砂地が見えたら出かけよう。ヤマトシジミは砂の中に潜っているけれど、あまり深くにはいない。手を熊手のようにして、広く浅くいろんなところを掘ってみるのがコツ。指にコツンと何かがあたらしたら、掘り出してみよう。きっとヤマトシジミが見つかるはず。

ヤマトシジミ (シジミ科)

■ヤマトシジミはこんな生き物

河口や干潟といった塩分の低い場所「汽水域」にくらす二枚貝のなかま。お味噌汁や佃煮などで食べたりするとてもおいしい貝です。殻の色は黒やこげ茶でつやつやしています。「西なぎさ」では、干潟の砂を掘ってみるとよく見つかるよ。見つけたら砂の上においてみよう。白っぽい舌のような形の足を出して、いっしょうけんめいに砂の中に潜っていくようすが観察できるかも。「西なぎさ」では持って帰ることもできるけれど、小さな貝は逃がしてあげたり、必要以上に採りすぎたりしないでね。

(教育普及係 田中 隼人)



水族園 のもう一つの顔

ビッグベリードシーホースがぬいぐるみに！

都立動物園・水族園のギフトショップでは、毎年冬に干支にちなんだぬいぐるみを発売しています。今回は2024年の「辰」にちなみ、タツノオトシゴのなかまをモデルにぬいぐるみを開発しました。その製作過程を紹介します。(総務部 営業課 商品開発係 村田 光)

モデルえらび まずは干支の辰にちなんだモデル選び。辰は架空の生き物なので、タツやドラゴンの名で思い浮かぶ生き物をいくつか候補に挙げました。その中から連想しやすそうなタツノオトシゴのなかま「ビッグベリードシーホース」が選ばれました。

製作準備 試作サンプルの準備として、写真資料を集め、展示水槽の様子やバックヤードの飼育個体を観察しました。ぬいぐるみで表現したい特徴やポイントを理解するためです。体の色や角など、姿が個体によって大きく異なる悩ましいモデルでした。

サンプル作製 製造元メーカーとの打ち合わせで生地イメージ、ポーズ、サイズ感、価格想定などの構想を固めました。今回一番のポイントは、針金などを使わずにタツノオトシゴが「立つ」ことです。難しい目標ですが、メーカー提案の素材を尻尾の部分に使い、さらに水槽内の情景をイメージした土台を付属することで実現できました。また、原油高・円安の影響が大きい情勢のなかで、凝った作りにながらも購入しやすい価格に抑えることも大事な目標でした。

飼育係の監修 サンプルが完成した後、飼育担当者の監修を受けます。生き物の特徴を捉えられているか、外せないポイントなどを飼育係の目線で確認してもらい、ヒレの位置や大きさ等の修正を加えました。最後まで意見を交わしたのは、体の模様の表現です。生き物のリアルさとぬいぐるみとしての可愛さのバランスを考えシミュレーションを行い、プリント表現の皮膚のような模様が決定しました。

完成! 葛西臨海水族園ならではのオリジナリティと、こだわりが詰まった干支のぬいぐるみがこうして完成し、ショップにならべることができました。手に取って、飾って、楽しんでいただければうれしく思います。

参考にした
ビッグベリードシーホース



本体や土台の色・模様が
決まっていない試作品。

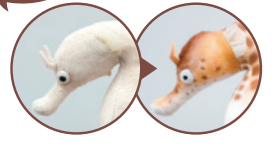


こだわり！
ヒレにはオーガンジーという透け感のある生地を使用。透明のヒレを再現。

頭頂部やヒレの形状などを
整えて完成！



見比べると...



TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 10/7-10 開園記念日イベント「All About MAGURO」を実施
- 10/7 開園記念日トークショー「マグロの未来を語ろう!」を開催
- 10/10 情報資料室でカタマイマイを展示
- 10/19-31 オーストラリアのダーウィンで生物採集を実施
- 10/22 「浮遊生物 6」水槽でサカサクラゲを展示
- 10/26 「オーストラリア北部」水槽でナーサリーフィッシュを展示
- 11/1 「深海の生物 1」水槽でヒラアシクモガニを展示
- 11/4 累計入園者数6,000万人達成
- 11/5 親子向け「おいしい魚 サケとマグロのみみつをさぐれ」を実施
- 11/6-17 小笠原諸島で生物採集を実施
- 11/22 「教育普及ふれあいシンポジウム 水生生物を介した学びを考える」を開催
- 11/26 「ボランティアーズDay2023」を実施



TOKYO SEA LIFE PARK

編集後記

タツノオトシゴのなかまは姿形も泳ぎ方も繁殖方法も風変わりで、どうしてこんな生き物がうまれてきたのかと進化の不思議を感じずにはいられません。2024年の干支「辰」と同じように空想上の生き物と言われても納得してしまいそうです。そんな面白い魚も水族園の水槽では間近に観察することができます。ぜひ見にきてください!(田中)

SEA LIFE NEWS 通巻 113

Vol.21 No.6 2023 DECEMBER 12月1日発行(次号は2024年2月発行予定)

編集 葛西臨海水族園
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3
TEL.03-3869-5152
www.tokyo-zoo.net/
発行 公益財団法人東京動物園協会
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7
池之端日殖ビル7階
TEL.03-3828-2143

